



就農者の支援策について真剣に議論する姿が印象的でした

日本公庫高松支店は、JA香川県職員向け「農業経営分析の研修会」を開催しました。21人が参加しました。

公庫職員が講師となり、SWOT分析や財務分析を活用して新規就農者の実態把握・課題整理をするグループワークや、新規就農者に対する支援策を営農面および金融面から検討する事例演習を行い、参加者の経験を踏まえた活発な議論がなされました。

参加者からは「研修を生かし目利き力やコミュニケーション能力を向上させていきたい」などの感想が寄せられました。(12月8日)

高松支店 JA香川県職員向け 農業経営分析の研修会



ミカンや梅干、マグロなどが出展され、大勢の来場者で賑わいました

和歌山県内の農林水産物・食品の販路開拓を後押しする商談会「わかやま産品商談会」が、今年で20回目の開催となります。日本公庫は共催機関として出展企業の募集などで協力し、参加70社のうち37社が公庫のお取引先となりました。

当日は、全国各地から総勢691人の来場があり、大変盛況な商談会となりました。出展者からは「普段接点のないバイヤーと話ができ良かった」との感想も聞かれました。(2月3日)

和歌山支店 わかやま産品商談会で 販路開拓を後押し



座談会では受講者から先輩農業者や関係機関に対して積極的な質問がなされました

青森県西北農林水産事務所主催のニューファーマーズカレッジにおいて、新規就農者向けの講義を実施し、就農後5年目までの新規就農者11人が参加しました。

日本公庫から、農業経営を開始する際のポイントについて、実際に就農を予定している地区での先事例を交えながら解説し、参加者との座談会も行いました。

参加者からは「栽培技術については先輩農家に聞けるが、それ以外については誰に聞けばいいかわからず困っていたので、非常に勉強になった」といった感想が寄せられました。(2月20日)

青森支店 農業経営の始め方について 新規就農者向け出張講義



放送内では公庫職員がおむすびを実食レポートし、商品の魅力をPRしました

日本公庫の認知度向上を目指したラジオ番組「日本公庫の桜晴れ!!」にて、国民生活事業と農林水産事業が初の合同放送をしました。

番組では、両事業の特徴や違いについて対話形式で丁寧な紹介。また、農林水産事業の資金制度を活用して自家生産の海苔と米を使ったおむすび屋「しろいしもり」を開業した森卓也氏(白石町)がゲストに登場し、開業に至った背景や今後の展望を語りました。

放送終了後、番組を聴いた方から「両事業の違いや利用者の話が大変参考になった」などの感想が寄せられました。(2月20日)

佐賀支店 支店発のラジオ番組 国民×農林のコラボ放送

◆春2号の特集「農食連携は何を変えらるか」を拝読しました。

「特集」の株式会社万惣さんとアイドル野菜出荷組合さんとの取り組みに感銘を受けました。農家とスーパーの関係は「タヌキとキツネの化かし合い」とありましたが、私もそのイメージを持っていました。

しかし、生産者が品目を絞り込んで生産性を向上させたり、スーパーが産地まで行き農産物を集荷したり袋詰め作業をしたりと、お互いに助け合い共存共栄していることを知り、イメージが変わりました。

このような取り組みが広がれば新規就農した方も安心して生産に集中でき、「新・農業者」の株式会社うめひかりの山本さんのよう

な、新進気鋭の若手経営者も増えるのではないだろうか、と感じました。

アフリカの古いことわざに「早く行きたいなら一人で行け。遠くに行きたいならみんなで行け」とありますが、まさにこのことわざを実践している取り組みだと思います。

私もよくスーパーに行きますが、これからは「生産者やスーパーの不断の努力によって、消費者が安心して買いたい物ができるのだ」と感謝しながら買いたい物です。

日本公庫には引き続き生産者や食関連企業への支援をしていただき、私たちの「安心」を支えてほしいです。

(高松市 古賀麻美)

次号予告 夏2号(9月発行)

有機農業、点から面へ(仮)

環境負荷の低減などを掲げた有機農業の裾野が広がってきた。栽培技術の体系化や大口販売、消費者の理解促進といった課題には、共同出荷や栽培技術の向上などで乗り越える生産者も増えている。有機農業の現場を追い、今後の展望を探る。

ご意見募集

今号はいかがでしたでしょうか。感想やご意見をお寄せください。FAX・eメールなどで受け付けています。掲載させていただいた方には薄謝を進呈いたします。

FAX: 03-3270-2350
eメール: anjoho@jfc.go.jp

編集後記

◆今号の観天望気は、明治大学農学部教授の小田切先生にご寄稿いただきました。小田切先生には、過去に公庫の評価・審査委員会の専門委員を務めていただいたご縁があります。今回は、農山漁村の人手不足対策について「マルチワーカー」と「関係人口」を切り口にご解説いただきました。各地で取り組みが広がることを期待します。(清野)

◆「変革は人にあり」で取材したフルトリエの中村美紗さんは、目標を次々と達成していくエネルギーを次々の方ですが、それ以上に、従業員や今まで出会った方々をとっても大切にされていると随所で感じたことが印象的でした。何かを成し遂げるためには、まず一人ひとりと向き合い、よいチームを作ることが肝心だと実感しました。(黒川)

◆ハウスの中でピンクのユニフォームが映え、眩しい笑顔が印象的な「農と食の邂逅」の矢野望美さん。現状に甘んじることなく、新しいことに挑み続けています。その背中を見て従業員の方々も一歩を踏み出し、望美さんはその挑戦を後押ししています。その人の成長を支える姿勢こそ、大きな魅力なのだと感じました。(澤田)

◆農山漁村に新しい人を呼び込むため奮闘される一人が、「新・農業者」の佐藤大輔さんです。佐藤さんは自身が移住2世代目のため、地域への恩返し気持で「弥栄町複業協同組合」など自社の業務の範囲を超えてさまざまな取り組みをされています。人が人を呼ぶ好循環が全国で広がってほしいと感じました。(村上)

AFCフォーラム 2026.8 夏1号

編集

小柳 典義 清野 健 宮崎 善幸
澤田 真理 黒川 知洋 村上 裕紀
水谷 徳子

編集協力

金子 弘道

発行

株式会社日本政策金融公庫
農林水産事業本部

〒100-0004
東京都千代田区大手町1-9-4
大手町フィナンシャルシティ ノースタワー
Tel. 03(3270)2268
Fax. 03(3270)2350
E-mail anjoho@jfc.go.jp

印刷

株式会社DI Palette

* 本誌に掲載している記事、写真、図表、データなどをご利用になりたい場合は、事前に当社までご連絡ください。

国産にこだわり

農

AGRI

と

食

FOOD

をつなぎます



2027年2月
大阪でも
開催決定!

国産農林水産物・食品の商談会

第19回

アグリフードEXPO 東京 2026

日時

2026年8月19日(水)・20日(木)
10:00-17:00 10:00-16:00

会場

東京ビッグサイト 東1ホール

主催:



日本政策金融公庫

来場事前登録は
こちら

